

## 平成30年度第2回大村知事と語る会

- 1 日 時 平成30年10月5日（金）午後3時から午後5時まで
- 2 場 所 愛知県庁本庁舎 正庁
- 3 テーマ 山から街まで緑豊かな愛知の実現～全国植樹祭を契機に～  
ー健全で活力のある「森林づくり」を進めよう！ー
- 4 意見交換者（五十音順、敬称略）  
阿部 晃久 豊田森林組合 森林整備課 森づくりグループ長  
唐澤 晋平 (一社)奏林舎 代表理事  
佐治 真紀 (有)泉企画 取締役社長  
前田 臣代 愛知県林業種苗協同組合 理事長  
森田 実 NPO 法人穂の国森づくりの会 事務局長  
山崎 真理子 名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授

【知事】 皆さんこんにちは。愛知県知事の大村秀章です。

本日は、お忙しい中、このように私と語る会にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

この会は平成23年度から開催しておりまして、テーマを決めまして、各分野、それぞれの第一線でご活躍されている皆さんにお越しいただいて、ざっくばらんに、率直にいろいろご意見をいただき、県政に盛り込んでいくことができればということで開催しております。今年度2回目となる今回は、「山から街まで緑豊かな愛知の実現」ということをテーマにさせていただきました。

愛知県は、名古屋という大都市を一步出ますと、豊かな田園風景、森も山も里山も、三河山間部では豊かな緑、森林もあるところでございます。

そういう中で、来年6月2日に、この愛知で2回目となります第70回全国植樹祭を開催することが決まっております、今、その準備を着実にやっているということでございます。実は、前回開催しましたのが1979年でありますので、ちょうど40年前に第30回全国植樹祭を藤岡町で開催しまして、今は昭和の森公園になっております。今回は尾張旭市と名古屋市守山区にまたがる県の森林公園を会場に開催するというので、着々と準備を進めてお

りますし、シンボルである木製の地球儀を、今年の6月の初めに、福島県さんから引き継ぎ、現在、県内54の市町村を巡回しております。大いにPRをして、しっかりやっていきたいと思っております。

これがPRポスターでございまして、大会テーマは「木に託す もり・まち・人の あす・未来」です。テーマソングも岡村孝子さんに作っていただいて、また大いにアピールをしていければと思います。

また、ちょうど今、9月議会を開会中ですが、県議会には、今年10年目になります「あいち森と緑づくり税」、県民税を1人500円上乘せさせていただいて年間20数億円の予算で、主に間伐や森の整備を行う財源ですが、あと都市部のいろんな植樹のイベントとか、NPOの皆さんにお願いして環境を考える様々なソフト事業にも補助する「あいち森と緑づくり事業」という事業が、今年10年目となり、これを来年度も延長しようということで提案いたしております。

などなど、様々にこうした<sup>もり</sup>森林づくり、<sup>まち</sup>都市づくり、そしてまた林業、木材利用をさらに進めていく一つのモデルになればと思って、取り組んでいければと思います。

なお、私も個人的なことを言いますと、私の父親は大工です。大工仕事というのは木材を自分で加工して現場に持っていきますので、子どものころから家中、材木だらけでございました。そういう意味では、木のぬくもりとか匂いというのは本当に体にしみついております。

あわせて、私は官僚時代、農水省におりまして、20代の時には林野庁で係長もさせていただき、全国の山を北海道から九州までずっと拝見いたしましたので、そういう意味でいろんな思いがございまして。日本の山、日本の森を次世代に引き継いでいくというのも我々の大きな使命ではないかと思っております。

そのようなことも含め、今日は様々な角度から皆さんのご意見をいただければありがたいと思っておりますので、何卒よろしくご意見申し上げて、冒頭のご挨拶といたします。ありがとうございました。

**【知事】** それでは、まず、先ほどご紹介させていただきました順番で、5分ぐらいを目途に、皆さんの日頃の活動内容でありますとか「山から街まで緑豊かな愛知」を作っていくために何が必要かとか、いろんなお考え、思っておられることを率直にお話しいただければと思っておりますので、よろしくご意見いたします。

それでは、前田さんからよろしく申し上げます。

【前田】 愛知県林業種苗協同組合理事長をしております前田でございます。昨年、組合の理事長さんが亡くなりまして、県内で唯一の生産者でありました私が理事長をさせていただいております。

私は、林業用苗木、ヒノキや少花粉スギの苗木を丹羽郡大口町、県の西部で作っております。自宅横にある0.2ヘクタールの畑でコンテナ苗を作っております。これがヒノキの苗で、こちらが少花粉スギです。来年の全国植樹祭で、新城で植えていただく予定で、あいちニコ杉を育てております。7年前からコンテナ苗木始めているんですが、父が亡くなった3年前から私が引き継いで苗木の生産をしております。

これが県内における林業用苗木の生産量の推移です。今から65年ぐらい前は3,000万本作っていましたが、それがどんどん減って行って、今から10年ぐらい前には県内生産者がゼロになってしまいました。父はその頃、組合の理事長をしていたので、「ゼロじゃいかにから、何とか自分がもう一回苗木を生産する」と言っていたんです。そのころは畑で苗を作っていたので、「高齢の父や私が機械に乗って作れるわけがないからやめたほうがいいよ」という話をしていたんですけども、7年前にコンテナ苗に父は出会い、すぐ宮城県の生産者のところに飛んでいっていろいろ話を聞いて、「これなら年寄りの俺でもできるんだ」と言って、すごく喜んで帰ってきました。

でも、7年前は間伐がメインで、植林というのはほとんどされていなかったんです。県の担当の方も「前田さん、そんな、作っても植えるところがないからやめたほうがいいんじゃない」というお話をされてました。もちろん私も他に仕事をしていたので、「やらないほうがいいよ」という話はしていたのですが、父はやっぱり強い思いがあって、このコンテナ苗を作ると言って、平成24年、父が83歳の時に始めたんです。中部地方でコンテナ苗を作ったのは父が第1号です。

その後、私は愛知県の森林組合連合会の会長さんのお話を聞く機会があって、「これからの山は、ちゃんと循環した山を作って、それを次の世代にちゃんと渡していかなければいけない、そのためには優良な苗木が必要だ」という話を聞きまして。父がやっている仕事は社会的にすごく大事な、重要な仕事だなと。自分が後継者としてやっていかなければいけないと思ひまして、3年前からやっているんですけども、おかげさまで、ここ数年愛知県内も植林が始まってきたので、今年も12万6,000本という苗木を植えられることができました。

これはコンテナの作業ですが、ハウスの中で土壌の準備をしたり詰め込みをして、穴をあけて、その穴に1年生の苗を植え込むことをしています。その後、8か月から15か月くらい管理して、山への出荷という流れになっております。

作業は、こんなふうには高齢者の方であつたりママさんたちが手伝いに来てくださって、繁忙期の2月・3月には15名くらいの方が来てくださいます。皆さん都合のいい時間に来てくださるので、なかなか全員がそろふことはありませんが、喜んで働きに来てくださって、私もすごく助かっております。

最後に、これは大口町の北保育園の新しい園舎です。

戦後、私の祖父や父が育てた苗が三河の山に行つて、こうして里帰りして使ってもらっているんです。私が今育てている苗木も、本当に小さな苗木ですけども、いつかまた里帰りして使ってもらえることもあるのかなと思つて楽しみにしております。

「苗木づくりは林業の根幹だ」ということを次の世代の方たちに伝えていって、これからもどんどん苗木も作つていって、貢献していけたらいいなと思つております。

以上です。

【知事】 ありがとうございます。

12万本も作れるんですか。

【前田】 そうです。狭い土地でいっぱいできます。コンテナ苗は、あれが1つで40本できます。

【知事】 種をまいて、芽が出るんですね。

【前田】 実は、うちは、種を他のところに送つて1年生の苗まで作つてもらつて、それを購入してそれを植えています。

【知事】 植えて、また何か月置いておくんですか。

【前田】 そうです。8か月から15か月くらいです。

【知事】 これで周年ぐるぐるぐるぐる回るんですね。

【前田】 はい。

【知事】 ありがとうございます。また後ほどよろしく申し上げます。

続きまして、阿部さんよろしく申し上げます。

【阿部】 よろしくお願ひいたします。豊田森林組合の阿部と申します。

今回この会にお呼びいただきまして、安定的な森林管理に向けてということで、現在豊田森林組合で取り組んでいる取組のご紹介をさせていただきたいと思つております。

まず初めに、私ども豊田森林組合は、豊田市さんの非常に強いバックアップを受けまして、平成19年度より「豊田市森づくり構想」のもと、森づくり団地化というプロジェクトに取り組んでおります。

先ほど愛知県さんの森林資源の情報がございましたが、豊田市についてもほとんどが人工林で、全体の60%ぐらいは人工林が占めているという状況です。東海豪雨以降、山の荒廃が問題視された中で、平成34年までに、対象とする人工林は民有林が主ですが、1万5,750ヘクタールをまず集約化しよう、そして間伐を実施していこうという計画を立ててやっております。

右側の表は、私ども豊田森林組合が独自に立てさせていただいている表ですが、若干豊田市さんとの予定とは少しずれてしまうものの、一応平成35年にはこの赤色のところ、1万5,900ヘクタールを集約化する予定で取り組んでおります。

豊田市全域の位置図ですが、緑色で塗りつぶされた部分が昔、大字、町単位で森づくり会議という会議を、地域組織を立てさせていただいて、その組織と私ども森林組合と豊田市さんの3者共同で行う事業となっております。

オレンジ色に塗られている部分が既に実際に集約化が終了した場所になります。見ていただきますと、緑色になっているがオレンジ色で塗られていない部分は、まだ森づくり会議が立ち上がっていないエリア。傾向としては、やはり街へ近づくほど森づくり会議自体が立ち上がっていないというような状況が続いております。平成29年度でトータル1万9,000ヘクタールほど団地化が終了しております。

この中から現状と課題が見えてきました。

こちらが森づくり団地で作る計画の内訳になっております。100%表示の欄と折れ線グラフは各年度に認定した森づくり団地の量になりますが、時代とともにピンク色、これは先ほどご説明にありました「あいち森と緑づくり事業」の計画量です。それに対して、下側のオレンジから緑色の部分は、昔から森林組合がなりわいとさせていただいております受託事業という部分になります。

この緑色の部分は、その中でも利用間伐の計画を立てさせていただいた場所です。利用間伐の量、多少前後はしておりますものの、大体同じぐらいの量で推移しております。かわりに、切って置いておく切り置き間伐と「あいち森と緑づくり事業」の部分の変動がかなり大きい状態となっております。

右側の表は、実際に組合が間伐した実施量になります。オレンジ色の部分とピンク色の

部分が大半を占めております。オレンジ色の部分は「受託事業」とかかせていただいておりますが、これは切って置いておく間伐と利用間伐、両方を合わせた間伐事業量となっております。豊田森林組合は、今までおおよそ100ヘクタールを超える間伐事業量を誇っていたものが、近年徐々に減少傾向が見られます。

こうした中、豊田森林組合としては、平成30年度から32年度の間、第3次中期経営計画というものを策定しております。この中で全部で6つの重点項目を挙げさせていただきまして、それについて計画的に取り組んでおります。

その中の一つに、「継続的な事業地確保」があります。事業地を確保していかなければ組合が安定した経営ができませんので、そうした部分で、私ども豊田市森づくりグループがここで一番貢献できるかなというところで、業務に当たっております。

昔ながらの現況調査と測量はもちろんのことですが、今、新しく取組を組合でしているのが地上レーザーです。山林の状況を把握するに際しても、今、豊田森林組合はあれだけの面積を森づくりグループ職員4名で回している状態ですので、どうしても調査の精度がうまく出せていない状況です。それを解決する方法として、このような地上レーザーシステムを使った森林資源の把握というのをどんどん導入していこうという取組をしております。

これは、一度、業者さんをお呼びでデモをしていただいたところですが、小さい機械の上にレーダーが付いていて、ぐるぐるっと回ると、このように反射強度によって林部の様子が可視化されていきます。木として認識された部分にはこういうマークがついて、太さと木の高さや曲がりなどが可視化されるような状況です。隠れているつもりですけども、人間もしっかり映るぐらいの精度が出ております。

これが実際にぐるぐる回りながらデモで撮った林部の状況ですが、青色の点が1点1点機械を据えて測定した箇所です。この赤い丸が実際スギ、ヒノキ、木が立っている場所と、太さが径をあらわしています。樹上がしっかり撮れておれば、これとは別に樹高も出ているような状態です。あと、曲がりも計算できるということです。

最終的に、豊田森林組合には今、GISも含めていろんな山主さんの思いや山に対する将来性も含めて、組合と話をさせていただく機会が多くあります。そうした思いを、やはり森づくり団地も含めた集約化ですとか、先ほどご説明した森林の状況、資源というのをもう少しきれいな状態で評価していくようなシステム、さらには、もう少し先の話になるかもしれませんが、森林資源の状況を把握できるような航空レーザーシステムとかいったものが導入されていけば、どんどん森林組合のGIS情報と合わせて利用できるようにしていきたい

いと思っております。

さらに、愛知県、豊田市さん、それぞれ山の森林整備に関して非常に精力的に取り組んでいただいておりますので、そことの連帯を含めて、人工林の整備も含めた取組をしていきたいと思っております。

以上です。

**【知事】** ありがとうございます。

それでは、また後ほどご意見をいただければと思います。

続きまして、唐澤さんお願いします。

**【唐澤】** 岡崎市から参りました、一般社団法人奏林舎の唐澤と申します。

私は、岡崎市の額田地域という森のほうで活動しております。平成の合併で旧額田町と岡崎市が合併して一つの自治体になりましたが、私たちが活動しているエリアは9割が森です。岡崎市の人口は今38万人の人口ですが、使っている上水道の半分が乙川という額田の森から流れ出た川から作られているということにして、我々が活動している森というのが、まさに市民の命を支える水源であるということを肝に銘じて、日々森林整備に取り組んでおります。

私自身は、額田でも岡崎の生まれでもなく、隣の幸田町というところの生まれですが、もともと幸田町と額田町が同じ額田郡ということもあって、子どものころから非常になじみ深いところですよ。4年前に妻と額田に移住しまして、何とかこの森を守っていかうではないかということいろいろ動いていたんですが、今年の春から、本格的に森林整備を行う受け皿ということで一般社団法人奏林舎というものを作りまして、額田に何人か、移住してきている30代、40代ぐらいの若い方もいるので、そういった方々と一緒に、日々、森林整備に取り組んでおります。今日も朝から昼までは山に行って木を出したり、日々山の中で汗をかく仕事をしております。

地域で取り組んでいるものとして、2015年から「額田木の駅プロジェクト」というのを実施しております。私が事務局を担当しておりますけれども、これは、額田はもともと明治時代から植林をしている林業地で、一時期は非常に栄えていたんですが、それがだんだん下火になってきています。山主がだんだん山から目を離してしまって興味がなくなってしまっているのを、もう一回、山に目を向けてもらおうではないかということで始めております。普通、林業というと、先ほどの写真のようなユンボとか大型の機械が要りますが、木の駅では、軽トラックに積めるような長さの木で出してくれば買い取りしますという

ことで、非常に参入しやすい格好で仕組みを作っておりまして、このような軽トラックにおじいちゃんたちが積んで材を出荷してくれれば、1トン当たり6,000円の地域通貨、額田地域のお店で使える券を発行して、森林整備と地域の活性化を進めております。

今4年目に入りましたけれども、過去3年間で100名ほどの方が出荷者として登録しております。まして、地域の50店舗ほどに地域通貨が使える登録店になっていただいております。出荷された木材として延べ3,000トンですので、年間あたりは1,000トンぐらいです。地域通貨の額としても延べでいえば1,700万円ということなので、地域活動といえどもそれなりのボリュームを持って活動しております。今年度も順調に進んでいるところです。

私自身、山側で一生懸命活動しているんですけども、木の駅にしても、結局、出してきた木を使っていたかかないことには、いつまでたっても補助金が入らないと成立しない世界になってしまっています。愛知県は世界に名立たる企業があつて、人口も非常に多くて活気がある地域ですが、どうも我々の森というのは取り残されてしまっている気がしているんです。ですから、愛知県に、先ほどあつたような4割ほどある森林資源をどうしたらこの川下の街につながられるかなということ日々考えております。

1つ今私がやっているのは、薪の製造販売です。間伐してきた木の中で建築用材に使えないような品質の低いものについては、自分たちで薪に加工して、ストーブユーザーに販売したりとか、あと、石窯のお店とかに販売しております。針葉樹の薪というのはあまり人気になかったんですけども、最近使ってくれるお客さんも割と増えてきているので、ちょっとでも今まで活用されていなかった材をこのような形で街で使ってほしいなと思っています。

これをもっと広げたいなと思っております。今、いろいろ地域の業者とかともやりとりしているんですが、例えば温泉施設であつたりとか、福祉施設、老人ホームなど、何か熱を使っているところをバイオマスに置きかえられないかなということで、右側の写真は、この間見学に行ってきた西尾のバラ農家さんですが、年間で1,000万円ぐらい重油を焚いておられるとのことでした。それだけ焚くことで、当然そのお金はほとんど地域外に出てしまいますし、二酸化炭素もバンバン出して環境にあまりよろしくないのが、愛知県の森林資源をつなげることで薪ボイラーとかチップボイラーとかを導入して、うまく地域の中で循環する仕組みを作れないかなと思っています。そうすると地域の中で雇用も生まれますし、農山村のほうでもまた新しい仕事が増えるのではないかなということで、今いろいろ検討しているところです。



あともう1つ、具体的に進めているのが、設計士とか工務店の仲間と「森と子ども 未来会議」というのを作っています。学童保育の建物がプレハブが非常に多い、名古屋市なんかでもプレハブが非常に多いということで、子どもたちのためにもっといい建物を造れないかということで、いろいろ検討しているところです。

子どもによっては、家にいる時間よりも学校にいる時間のほうが長いようで、その生活環境を、地元の森林資源でより良いものを提供できないかなということで、こうしたものの設計とか提案を具体的に進めているところです。ぜひ、子どもたちの身近な生活の場の中に地元の木のぬくもりを届けていきたいなと活動しております。

私からは以上です。ありがとうございました。

**【知事】**      ありがとうございました。

また後ほどよろしくお願いします。

それでは続きまして、森田さんお願いいたします。

**【森田】**      穂の国森づくりの会の事務局長をやっております森田と申します。

名前が実で、森田実で森づくりという形なので、よく本名じゃないだろと間違えられるんですが、本名でございまして。兄が茂といいまして、私の弟がいたら何ていう名前がついたんだろうかと思います。冗談のようなことでお話しさせていただきました。

日々の森づくりの会の活動をプロジェクターで皆さんに見ていただくかなと思っていたんですが、この間の台風24号の影響で豊橋が大規模停電で、私の自宅もほぼ1日停電状態だったということと、もう1つが、風倒木がかなり出まして、私どもが活動している現場を見たり、バタバタとしておりまして、済みません。今日は前方の人たちだけですが、私どもが1997年に設立しまして、20周年の記念誌を作りましたので、この記念誌を見ていただければと思います。

私ども、1997年に愛知県の東三河の森林の保全、育成、再生を目的として、市民だけではなくて、地元の企業、または行政さん、この3つのセクターが一体となって東三河の森を作っていこうということで立ち上がった団体でございます。ですから、愛知県さんもいろいろと日頃はバックアップしていただいております。

普段の活動ですが、実際に山へ行って間伐のボランティアをやったり、または時々ですが植林することもございます。

記念誌の25ページの一番下の写真を見ていただくと、大村知事様にも2011年7月の本当に暑い中、10本以上、汗いっぱい植えていただきました。13ページにありますけれども、

その森ももう大分大きくなってきて、今は平均樹高が5メートルを超える照葉樹林に再生しつつあります。このような人工林の間伐、それともう1つは自然林の再生という取組を行っております。

もう1つ森づくりの会の活動で力を入れているのが環境教育です。先ほど紹介もいただきましたが、小学校に出向いて、森の大切さ、愛知県の森の抱えている現状、木を使うことの有効さとか良さを伝える出前授業もやらせていただいております。一番多かった時は年間60校ぐらい回らせていただいたんですが、なかなか人手不足で、今は年間20校程度、子どもたちを山に案内したりしております。

それともう1つ最後に力を入れている事業が、企業さんが取り組む森づくりを支援する活動をやらせていただいております。愛知県さんの企業の森づくりの協定がございますが、その企業さんも幾つかお手伝いさせていただきます。

ほかにも、様々な森と市民を結ぶ活動をやらせていただいております。

以上でございます。

【知事】 東三河全域ですか。

【森田】 そうですね。

【知事】 ありがとうございます。

また後ほどよろしく願いいたします。

続きまして、佐治さんよろしく願いいたします。

【佐治】 もりりんず、有限会社泉企画の佐治真紀と申します。よろしく願いいたします。

私の話したいことは3つです。モリコロパークで「自分を建てる」をしたい！、2つ目が「ぼくの机・私のお部屋プロジェクト」を推進したい！、3つ目がジブリパークと中山間地域を結びたい！ということです。

まず初めに自己紹介をします。

私は、小学6年生の双子の母です。産後うつを経験し、その時の思いがこの活動の原点になっています。平成23年に東日本大震災が起きました。自分で考えて自分で動かないといけないと感じ、それまでの学びを深めるために、とよた森林学校で学び、また同じく海上の森大学でも学びました。そこで学んだことを生かして、間伐ボランティアをスタートしました。

その時、幼稚園児だった子どもの友達を誘って間伐ボランティアをやろうと思ったんで

すが、ここで1つ問題が起きました。「間伐ボランティアに行かない」とか「耕作放棄地の解消に行かない」と言っても、誰も見向きもしてくれなかつたんです。あれっおかしい、私はいろんな課題を感じているのに、みんなには何で響かないんだろうと思ったら、お母さんたちは、人のことにはあまり関心がないというのが本音のところ、田植え遊びとか子どもに泥んこ遊びをさせないとお誘いしたら、同じことでも喜んで皆さんが来てくれるということがありました。誰かのためにやるということは、実はあまり皆さん興味はなくて、自分が新しい楽しい活動をするということには、興味、関心を抱いていることをその時に学びました。

これがその時の活動です。お父さんも初めて薪割りをやってくれました。これが生まれて初めて皮むき間伐を教わった時です。

2015年には、セブンイレブンさんが行っている海外研修に行かせていただきました。10日間ドイツで研修し、同じ志を持つ仲間が全国にいることを知りました。また、ドイツでは会員数が50万人という環境活動団体があり、仲間の大切さを改めて感じました。

今、私は旅行会社として、街の方に皮むき間伐などを通した森での1日をご提案しています。今まで活動していた中で私が森を元気にしていると思っていたんですが、実はその逆で、森が私を元気にしてくれているということに気がついたからです。普段とは違う環境で、ラフな格好でみんなの外でご飯を食べるということは、思いのほか人間関係を深める反応があるということを感じています。

私が行っている「もりの環」と名づけた皮むき間伐は、人工林の課題の認知度を上げ、楽しさによって参加のハードルを下げ、問題の解決を推進していると感じています。具体的に「もりの環」というのはどのようなことを指すのかと申しますと、スギやヒノキの人工林に入って、7~8人で木を囲み、ピャーっと皮をむき上げるという活動です。めったやたらに行うのではなく、一定のメソッドに則り、スギやヒノキの森が適正な状態になるように本数を配慮して行っています。その後、森から離れた後も専門家などのお力を借り、自分たちの生活に取り入れていただけるようご提案しています。

この活動の最大のメリットは2つです。幼稚園児から参加できるということ、あと、皮をむいた後材が軽くなるということです。

植樹祭というのは木を植えるということのフェーズだと思いますが、私たちの活動は木がより成長するための、上の部分のフェーズだと考えています。

昨年度は、中学生の野外教育の中で間伐をしませんかというご提案を書面にして、県内

の中学校全てに送りました。1校反応がありまして、今年の5月に豊明市の中学生が230人、旭高原で皮むき間伐をしてくれました。中学生が「もりの環」間伐してくれた材は、ぜひこの機会に愛知県にやってくる植樹祭で一部何か利用していただき、終了後は、同じく尾張旭市にある公共施設などで再利用してもらえたらうれしいなと考えています。

NPO活動においては、モリコロ基金のお世話になりました。モリコロパークにあるサトラボ開拓団の友人から相談があり、収穫祭を盛り上げるようなことを何かやってくれないかというご提案をいただきました。モリコロ基金のお世話になっているんだから何かご恩返しをしようと考え、11月に行われるサトラボ収穫祭に、1日だけですがこのようなブランコを設置していただけるよう、協議を進めているところです。

今年のゴールデンウィークに行った活動をご紹介します。

みんなで皮むき間伐したものを自分たちで搬出して、南区のビルの1階を木質の床にするというプロジェクトを素人だけで行いました。これができ上がった床です。本当にみんな知らない人同士ですが、やっていて楽しかったですし、それを見ていた近所のおじさんが、誘ってもいないのに「何やとるんだ」と入ってきてくれて思わぬ世代間交流になり、結果的に近所のおじさんが実は昔大工だったということから、いろんな技を学んだりするとてもおもしろい時間になりました。

これを踏まえて1つ目のご提案です。

モリコロパークで、ぜひ「自分で建てる」プロジェクトをやりたいと思っています。

子どもたちが森で自分で皮むきしたもの、材を利用して、子どもたちを主体に自分たちで小屋を建てて、子ども商店街を実施するというプロジェクトです。子どもを中心に、専門家はサポートとして回っていただきます。愛知建築士会名古屋中支部さんやあいちの木で家をつくる会さんにご相談したところ、「おもしろい企画だからぜひ協力するよ」と言ってくさっています。こんな小屋を建てて、みんなが1日お買い物ごっこをするようなプロジェクトができたらいいなと思っています。

2番目は、「ぼくの机・私のお部屋プロジェクト」です。

先ほどと同じように親子が森に行って皮むき間伐をして、その間伐材を利用して学習机にしたいと思っています。私の皮むき間伐の活動に参加してくださった参加者さんから、「佐治さんのところでむいた皮で机を作れないの？」という問いかけを受けて、いろいろ各方面に当たりましたが、私の力ではその時できませんでした。ただ、他府県では森林組合さんなどがこういう活動を行っていたり、また、名古屋駅にできたグローバルゲートで

は静岡の事業者さんが県内産を使った学習機を販売していたりして、悔しいという思いがとて大きくありました。

3つ目は、ジブリパークと中山間地域を結びたいということです。

フランス在住の友人によりますと、東の果ての国である日本に対する憧れの気持ちは、フランス人はとても強いんだそうです。平和な国である、きれいな国であるということから、行ってみたいと思う若者はたくさんいるそうです。また、ジブリの期間限定ショップができたりするなどジブリへの関心も、欧米では一番最初にジブリのアニメを取り入れた国でもあるそうです。また、バカンスをするという風習があり、同じく決められたところに行くのではなくて、何か自分で開拓したいサバイバルというのが旅行の中で人気を集めているそうです。そういうことから、フランス人を少人数、ピンポイントで誘致して、ジブリパークを楽しんでいただき、その後、中山間地域でサバイバルしていただく、そんなプロジェクトができたらいいなと思っています。

まとめとして、自分たちが楽しむという視点で県民の皆さんに森に来ていただくことにより人工林の課題の認識が広まり、同時に解決も進み、参加した方には森の恵みが受け取れる、快適な暮らしができる。そのような流れを作ることが私の願いです。

ありがとうございました。

【知事】      ありがとうございました。

モリコロパークの「あいちサトラボ」にはよく行っていただけるのですか。

【佐治】      今回初めて、友人から言われて改めてお邪魔したところです。

【知事】      ありがとうございました。

あんなところもイノシシ出てくるんだよね。

【佐治】      そうですね。網が張ってありました。

【知事】      ありがとうございました。

後ほどまたよろしく願いいたします。

最後に、山崎さんよろしく願いいたします。

【山崎】      名古屋大学の山崎でございます。あまり自己紹介のスライドを持ってきませんでした、簡単に口頭で自己紹介しておきたいと思います。

木材強度学というのが私の専門です。もちろん結構マニアックな基礎研究もやりますけれども、愛知県内でのお仕事ですと、例えば県産材の品質分布を調べたり、山の中で非破壊で検査できないかとかいったことの技術開発をやったり、先ほど風倒木のお話がありま

したが、風倒木で出てきた材料は本当に使えないのか、使えるのではないかということ森林林業センターの方と共同で研究しております。

木材強度学がベースですが、それは何のためにやっているかということ、森林を循環させていくために木材を利用するのがメインになります。先ほど唐澤さんから、2メートルの材料をもっときちっと川下へつないでいけないかというようなことが出てきましたが、私たちの大学では、旭のプロジェクトや豊田森林組合さんと連携しながら未利用材をマテリアル利用する、短い材料も使っていこうというようなことをしております。

私の活動というよりは世界の動きを見ながら、どんな方向へ向かっていきたいか、愛知県だったらできるだろうというお話をしたいと思っております。

この建物は、つい最近建てられたものです。ユーチューブなどでも見ていただくと、建設現場を追いかけることが出ていまして、カナダのブリティッシュコロンビア大学の学生寮です。18階建てで、今、木造では世界最高と言われてます。最高と言われてますが、今欧米では高さ競争が始まっていて、34階建てだ、何階建てだなんていうことが起こっています。

海外だからできるとか地震がない国だからできるということではなくて、これは某ゼネコンさんですが、日本でも今ある技術でもう十分こういったものを造っていけます。国も法整備を随分進めていますので、法整備の範囲の中で木材というのをもっともって活用していく、社会の中で使っていくことができますというご提案があります。この会社の方は、「言っていただければいつでも造りにいきます。これは今すぐできる技術だ」とおっしゃっていました。

これは去年見に行ったものですので、今はもっと進んでいると思いますが、フィンランドのヘルシンキ市のまちなかに行政が木造特区というのを作りました。特区ですけれども何も規制緩和はしていません。ここに木造で造るんだと宣言しただけの特区ですが、ここに8階建て、10階建てというのをどんどん造っています。

なぜこれをヘルシンキ市がやったのかお聞きしたところ、フィンランドというのは、日本よりほんの少し森林率の高い国です。つまり、森林を持っている、木材生産をやっているということは、自分たちが環境ビジネスとして、もっともっと世界にPRしていかなければいけないし、そこにチャンスがあるんだということを強く訴えておられる。それを世界に訴えるためには、自分たちがまずはそれを見せる化しないといけないだろうと、見える化を図りたいということでされているということなので、日本としては非常に示唆に富ん

だものがあります。

ヘルシンキの郊外になりますが、環境団地という形で、これは中層の4階建てぐらいですが、中層の団地群を使って若い人たちに住んでもらおうと。非常に人気が高いそうです。環境に配慮した住宅に住みたいけれども、マイホームを建てられるわけではない、都市部に行かなければいけないという方はたくさんいらっしゃいますので、そういった方には非常に人気の高い団地だと聞いています。

他にも本当にたくさんの建物が世界で建てられていて、私はルネサンス期だと言っています。

なぜこういうことが起こっているかという、皆さんおっしゃるのが、1番目に環境優位性だと言います。環境に優しいとかそんな言葉ではなくて、未来の地球と一緒に自分たちの社会を発展させていこうとした時に非常に優秀な建設材料として木材を見ているんだということをいの一番に言われます。これがあるのに何で使わないんだという言われ方をするんです。

もう1つは、いろんな方が話していただいたことともつながってくると思いますが、やはり地場産業に貢献できる。建設材料として木材を使うことで中山間地域とつながっていくということをおっしゃっています。

そういったことがあって、木造建築というのは、私たちが普通に思っている建築物とは全く違う使われ方がしているんだと思います。

愛知県でと考えると、先ほどこの会の趣旨説明で出てきたことと全く同じになりますけれども、森と街を一緒に持っているというのは日本の中ではレアと言いますか、稀有な県になります。ただ、よく考えてみたら、日本という国は、森と人口と技術、みんな持っています。私は、愛知県が日本の先進モデルとなって良い森林づくりと良い都市づくりを循環させていくという現代的な社会を作っていくことができれば、日本に対して非常に大きな勇気になるだろうと思っております。

SDGsという言葉が最近世界的に言われるようになっていますが、持続可能な社会を作っていくということが掲げられた時に、木材というのは環境と社会と経済を全部をつなぐ材料だと常日頃から感じています。森を作る、街を健やかな状態に作るような材料でもあるし、そういった街は質の高いコミュニティが恐らく生まれてきます。やはり少しメンテナンスが必要な材料を使うということは、コミュニティ能力を高めていかなければいけないということになります。こういったことができる産業界を作っていけるといいなというの

が、私の日々の思いです。

植樹祭と絡めて少しお話をしたいと思います。

植樹祭で、私は木材利用専門委員会の座長をなぜか仰せつかっております。いろんな工作物を作らせていただいていますけれども、少しテーマを決めて建設物を考えています。

お野立所は、新しい工法へチャレンジしていこうということで、今ある技術をどういふふうに組み合わせていくとおもしろいデザインができるのかということにチャレンジしているところです。ここのところ、すごく風の災害が多かったり台風の災害が多かったりしますから、こういったデザインの時に風のことをどうやって考えればいいのかということも一緒に考えたりしています。

左下のものは、これはまたちょっと違ってしまっていて、どちらかというとも森林組合さんとか木の駅プロジェクトさんと近い話になってきますが、今まで建設材料として使いにくかったようなものとか、森林組合の中でやるとか山の中でできる加工のレベルをぐっと高めて工作をすることで、まちなかでおもしろい工作物ができるんじゃないかということにトライしているものです。

もう一つ、おもてなし広場というのがありますが、おもてなし広場では、名古屋地区を中心とした愛知県内の大学、今、7大学か8大学ぐらいの学生をつなぎまして、様々な学年、様々な専門の学生さんたちが集まって、ここにどんな工作物を作ろうかというのを日々話し合っています。

少し宣伝になりますけれども、11月3日に学生がコンペをやります。こんなものを作りたいと4グループが出てきてコンペをします。その中で、市民の方々にこれがいいんじゃないという評価をいただいて、実際に何か一つ作りたいということを考えています。

私が訴えたいことはと言われると、皆さんの優しいトーンと変わってしまっていてすごく産業的なことになってしまいますけれども、やはりこれだけ多くの森があって、しかも、とても質のよい木材がとれるエリアですので、ここの資源をゴミにしないで、きちんと資源として宝物として産業とつないでいけるような施策を行政サイドにもやっていただけると、必ずこの地域というのは進む地域だと思っていますので、いいなと思っています。

以上です。

**【知事】** ありがとうございます。

ぜひまた来年の植樹祭に向けて、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。



また後ほどいろいろご意見いただければと思います。

一当たりご意見をいただきましたが、またどなたからでも結構です。まだ言い足りないとか、さらにこれも言いたいとかあろうかと思しますので、もう一度前田さんから順に一言ずつご発言いただければと思います。

【前田】 先ほど最後にご紹介しましたが、大口町の北保育園、新しい保育園です。私もこの間初めて行きましたが、本当に芝が青々して、その隣にビオトープで地下水が掘ってあって、遊具も置いていないのに、園庭で子どもたちが遊び回っていました。

尾張部の公共施設で木材のこれだけ立派な建物は大口町が初めてだという話を聞いたのですが、尾張に行ったらそういう建物がないんです。寺とか神社に行けばあるんですけども、その他で公共の建物ではありませんので、もっともっと造っていただきたいとすごく思っています。隣の扶桑町も来年ぐらいに木造で児童センターを造って、設楽の木を使うんだという話を聞きましたけれども、そういうのがもっともっと広がって行って、子どもたちに小さな時から木の良さをぜひぜひ知っていただきたい。

我が家も、実は祖父が昭和27年ですから、65年ぐらい前に建てた家で、それを古民家再生して4世代で住んでいるんですけども、木造建築は本当に長く使えるんです。100年もつと思うんです。さっきもいろいろお話が出ましたが、愛知県にたくさん山があるので、その山の森林をぜひぜひ利用していただけたらいいな、子どもたちに木の良さを知ってもらいたいなというのをすごく感じます。

以上です。

【知事】 ありがとうございます。

保育園、幼稚園でしたっけ。あれはオープンの時に私も行かせていただきまして、すばらしいです。

確かに、あのような建物は尾張には少ないですね。平野部にはね。

【前田】 そうですね。

【知事】 それでも、少しずつこれから増やしていけばいいのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

引き続き阿部さん、お願いします。

【阿部】 皆さんの話を聞かせていただきまして、使う側、使う道というのを聞かさせていただいたと思っております。私も森林組合、やはり地域の森林資源を守っていくと同時に、利用というのも考えていかなければいけないのかなと。

一応当組合、林産事業ということで、毎年2万5,000立方ぐらいの搬出量は持っていますが、まだまだ森林資源的には足りないのかな。さっきおっしゃられたように、山のほうで寝ている材はまだたくさんありますので、そういったところを効率よく出していくことを考えていくのと同時に、前半でお話しさせていただいたとおり、実際、木を出すのは、実は僕ら森林組合の職員ではございません。やはり現場を切り盛りしていくような技術者の人たちをもう少し増やして、雇用も含めて取り組んでいけたらいいかなと思っております。

以上です。

【知事】 ありがとうございます。

それでは、唐澤さんお願いします。

【唐澤】 私は今林業をやっていますけれども、もともとの専門は環境教育でして、つくづくこの森づくりとか木材利用は人づくりをしていかなければいけないなということを感じています。

額田の子どもですら、いまだに木を切るのは悪いことだと思っている子もいるぐらい、やっぱり一般市民と森との距離がものすごく開いてしまっていて。

今の森の状況や人工林の状況や日本の木材がどういうことになっているかということ私自身が全然知らなくて、この5年ぐらい本当に勉強してかかわるようになっていっているので、もっともっとそういうことを伝える場を増やしていく必要があると思って、私もいろいろ講座とかをやったりしていますし、森田さんとか佐治さんのような、街の人を森に連れてくる活動をますますこれから増やしていく必要があるんだろうなと。その中で、やっぱり地元の森って大事だよ、木を使うっていいよねという文化がこの地域にできていけば、今ほどお先真っ暗な林業ではなくなってくるのではないかと思いますので、ちょっとでも森に目を向ける市民が増えてくるとうれしいなと思っています。

今回、全国植樹祭があるということで非常に大きな注目を集めると思うのですが、それがたった1日の打ち上げ花火で終わるのではなくて、そこから木を使う、森を育てる文化というのが愛知県の中で広がっていくとすごくいいなと期待しております。

【知事】 ありがとうございます。

ぜひそうしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

森田さん。

【森田】 先ほどお話しした続きですけれども、台風24号が去った後の10月2日に新城、設楽へ行きました。私ども、設楽のほうに1つ管理をしている森があって、そこに向かって

いったのですが、その途中の道の上を見ると、電線にいっぱい風倒木がかかっているんです。ということは、停電につながる、また電話も通じないという状況です。

「あいち森と緑づくり税」の事業は、公道沿いの森林整備を推進することを事業の一つとして大きくやられていると思うのですが、今回継続されるということをお聞きして、非常に安心しました。これからの山を守っていくためにも、山のインフラを守っていくためにも、道沿いの森林を整備していく大切さというのを非常に感じています。

それとは別の話になりますが、街から来られる方とかとよく話をする機会があるんですが、林業だけではなりわいとして生計が立たず、やっていけないという方がすごくたくさんいらっしゃるって、志半ばでどこかに行ってしまう。私もこの仕事を20年やっていますが、そういう方が非常に多いです。

そこで私どもが考えているのは、もちろん木材を使うということも考えているんですが、森の空間をもう少し利用することができないか。環境教育もそうですが、教育だけではなくて、最近、東三河ではスポーツ、トレイルランニングとかいうことも盛んに行われていますし、新城ラリーで林道を使われたり。林業、木材生産以外の、森のもっと多面的な機能を生かした活用の仕方というのを、私どもの会では打ち立てていきたいと考えています。

それを実現するためには、阿部様が言われたとおり、まだ森林の情報の整備が非常に遅れているというのがありますので、愛知県の森がどういう状況にあるのかという情報が集約できる施設があって、それを木材資源として使う、または森林空間として使う、いろんな使い方ができる情報がある中核的な施設、センターができて、そこにいろんな人が観光とかでアクセスしていけば、いろんな森の情報がわかる、森林版のDMOと言うんでしょうか、そういうふうなものを実現できたらいいと思っています。

愛知県の東三河地域は人工林の割合が76%です。多分、愛知県内で一番人工林の多い地域でありますので、そういうふうな施設がぜひあればと思います。今回の植樹祭は尾張旭、尾張地区で開催されますが、東三河地域のほうでもぜひ、この植樹祭を機会に、森を生かしていく、森を知るということをPRしていきたいと思っています。

【知事】      ありがとうございました。

この間の台風で風倒木で架線が切れて、電線が切れて、停電ですね。

【森田】      停電ですね。

【知事】      24号は大変風が強かったというのはありますか。最近、風倒木が多いよ

うな気がしますけど、気のせいですか。そんなことはないですか。雪が降っても、雪害でもばきばき折れてきますので、山が弱っているということですか。

【森田】 道沿いの森林整備というのはやっぱりコストがかかります。車や人が通るところにもし木が倒れてしまうと大変なことになってしまうので、やっぱりそれなりの措置を、対策をしながら木を倒したり整備しないといけないもんですから、整備が一番進んでいかない場所。人の近くにあって一番整備しづらい場所という矛盾を抱えています。

【知事】 また課題かが出たという気がしますけれども、ありがとうございます。

それでは、佐治さんお願いします。

【佐治】 今まで私たちの活動に参加してくださった親子の方は、基本的に親御さんが子どもにこういう体験をさせたいということで参加していただいています。

子どもは、来たら、もちろんみんな楽しんでいる。お砂とか虫とか大嫌いという子も、「あれっさっきそう言っていたのに」と思うぐらい楽しく遊んでいるというのが、中山間地域の魅力というか開放感というか、木の持つ力というか、そういうものなんだなというのを実感しています。

と同時に、親御さんは、最初はお子さんのために私は付き添いで来たというアプローチですけれども、最終的にはすごく納得して帰ってくださる。見る限りの山が緑だからこの山はすごくいい状態だと思っていたけれども違うのねということをすごく実感して帰ってくださっているのが、親子で来ていただくことのメリットだなと思っています。

「次はお父さんも連れてくるわ」と言って、先ほどのように薪割りに来てくれたり、「生まれて初めての体験を40過ぎてやりました」と言っていたのを聞くと、私40代ですが、この世代がしてこなかった経験が森にたくさんあって、子どもももちろんですけれども、その親御さんたちにもこういう活動を届けたいと思ってやっています。

【知事】 よろしくお願いします。

山崎さんお願いします。

【山崎】 先ほどから何名かの方が、やはり人が大事ということをおっしゃっていて。これからの社会、どの産業も人がいなくなってくるということはよく分かっていることですが、森を守っていくために、森をつくるということが非常に魅力的な産業なんだということが伝わっていくような社会をつくりたいと思います。

先ほど世界の事例をお話ししましたが、林業、林産業、建築業と分けるのではなくて、全般を通じて生物由来の材料で私たちの生活の基盤を作っていく循環型産業、森林資源産

業という言い方をしているんですが、こういった産業がすごく未来志向で、これからおそらく22世紀型の産業になっていくということを信じています。こういったところに担い手が来てくれる、専門的な担い手やエンドユーザーである市民としての担い手も作るというような観点から、やはり今できることというのは、植樹祭を1回こっきりで終わらせないよというところがありました。私も本当にそのように思っています。ぜひ魅力的な産業が魅力的な街を作ってくれる、それは森も作ってくれるということがきちっと見える化されてくる、わざわざ私がこうやって説明しなくてもそういうものだというのが自然と伝わるような。尾張地区に全然木造のものが無いという話がありましたが、この平野地区にたくさん人が住んでいるということを考えれば、その人たちが自然と理解できるような社会につなげていけるといいなと思いますし、植樹祭というのをそのきっかけにできるといいなと思っています。

【知事】 戦後、建築基準法で木造建築物というのは基本的には3階以上はアウトでしたよね。

【山崎】 はい。

【知事】 2000年前後でしたか、僕ら国会議員の若手みんなで、建設省へ建築基準法の改正を要望して、ようやくモデル的なものはいいいということになりましたが、実際は造られてないですね。

【山崎】 でも、東北のほうで今10階建てを目指しています。木材だけで頑張ろうとしないで、まずは混構造からスタートしていいと思うんです。

【知事】 そうでしょうね。

【山崎】 木材だけで頑張ろうと思わなくても、鉄骨造とうまく組み合わせたり、RC造とうまく組み合わせることで、今までとは違った観点で使っていけると思いますので、日本は日本なりに技術を磨いていくといいなと思います。

【知事】 技術はあるんですね。

【山崎】 はい、あります。

【知事】 アメリカ、ヨーロッパでやれているんだから、日本でやれないわけがないです。

【山崎】 はい。建築基準法的にも建てられるように随分なっています。

【知事】 規制は変わってきているはずですけども、大型の木造建築物が少ないというか、広がっていないでしょう。

【山崎】 そうなんです。

【知事】 どうしてでしょうか。コストがかかるということですか。

【山崎】 そんなことはないです。S造と全く一緒ではないですけども、1割増しぐらいだと言われています。

木造のいろんな技術がありますが、技術が進んでくると、実は乾式工法なので工期を圧縮することができます。工期を圧縮することができる、実は労務費の部分のコストを下げるができるというようなこともあるようです。ヨーロッパなどで進めているのは、それが理由です。建設の労務費を下げる、その代わりに資源にお金を返すということをやっているということなので、私は今はやるかやらないかだけで、大村知事がやりましょうと一言言われるか言われなだけでと思っています。

【知事】 なぜ日本であまり木造建築物が広がっていかないのかなと思っています。

【山崎】 私、2週間ぐらい前に日本のある地域へ見学に行きました。今日本の最先端と言われているモデルの建物を見に行ってきました。

そこのディベロッパーさんとお話ししていて、私も知事がおっしゃるように、「技術的にあるんだけどなかなか進まないですよ」と、ちょっと斜めな形で聞いていたんです。「でも、これ、本当にできますか」ということを聞いたら、「いや、5年後にはこういうのがバンバン建つようになりますよ」と普通におっしゃるんです。その方は木造の方じゃないです、純粋なディベロッパーさんです。そうなってくると、これは技術を集約した地域にどんどん吸い上げられていくという形になりますので、私は、せっかくこの平野地区が木材産業、機械産業もそうですけれども、たくさん持っていますので、ぜひこの地区の平野の部分であればできたら格好いいなと思っています。

【知事】 ありがとうございます。

2巡ご意見いただきましたが、いかがでございましょうか。どなたでも結構です。まだ言い足りないとかもっと何かこうしたらどうかとかいろいろあれば、またご意見いただければと思います。

よろしいですか。

それぞれ皆さん、森林整備とか木材の利活用だとか、様々ないろんな活動だとか、子どもたちへの教育だとか、いろんな面でご活躍いただいておりますので、そういう意味では、引き続き、ぜひよろしくお願ひ申し上げたいと思いますが、私ちょっと気になるのは、植林、造林をやって植えると、イノシシとかシカが食べてしまうでしょ。

【阿部】 シカが多いですね。

【知事】 これはやっぱり生態系が崩れているということですかね。昔はこんなにイノシシやシカが多くなかったと、みんな言います。

【阿部】 東三河のほうはもともと多かったですね。豊田地区でいうと下山ぐらいから徐々に徐々に増えてきたという報告があって、今、もう日進に近いところまでシカが出ているような状況になっています。どんどん拡大しているのか移動しているのかわからないですが、普段いなかったところに出ているのは事実です。

【知事】 広がっているんですね、間違いなく。

例えば、茶臼山の芝桜のところでは、イノシシというかシカです。シカ対策で、シカが飛び越えられないように2メートルとか1.5~1.6メートルの柵を設けないと、みんな荒らされるというか食われてしまいます。こんなところまで来るのかと驚きました。

先ほどお話しした万博公園、モリコロパークの「あいちサトラボ」で柵があったので、何かと尋ねたら、「イノシシが来て、みんな荒らしてしまうと言っていました。「ここまでイノシシ出るのか」と尋ねたら、出ますと。設楽の町長に聞いたら、「私が子どもの頃はこんなにイノシシいなかった」を言われました。

さっきの風倒木も、やっぱり山が変わってきているのかと思いますけれども、それじゃいけないですよ。

済みません、よもやま話になってしまいましたが、ありがとうございました。

皆さんからたくさんご意見をいただきまして、引き続き私ども、来年は全国植樹祭がありますので、またそれに向けてしっかり準備を進めていきたいと思っております。

期せずしてといいますか、来年5月1日に今の皇太子殿下がご即位されることになり、新天皇陛下の最初の行事を我々が受けることになりましたので、非常に注目されるのではないかとと思っておりますので、しっかりとそこで盛り上げてやっていければと思います。あわせて同時に植樹は藤岡町や新城市でもやりますし、名古屋のオアシス21と豊橋ののんほいパークもサテライトになりますので、そういう意味では全県的に盛り上げていければと思いますし、またしっかりやっていきたいと思っております。

植樹祭はもちろんです、そこを契機に愛知の、都市から、都市近郊から、また農村地帯から、里山から、三河の山間部も含めて元気で健康な森を作って、多くの皆さんに楽しんでいただけるように、そんな山の整備をしっかりやっていきたいと思っております。

今日は、6人の皆さんにお越しいただきましてありがとうございました。皆様のお力をい

ただいて、これからも愛知の森と緑づくりをさらに進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたしまして、今日の会は以上とさせていただきます。

これからもよろしく願います。どうもありがとうございました。

— 了 —